

東日本大震災

「あの日を知り これまでを想い これからのを考える」

花巻地区家庭教育セミナーを開催

日時：令和4年10月1日(土) 13:30～15:40

会場：花巻市文化会館(大ホール)

第27回家庭教育セミナーを花巻地区で開催しました。セミナーでは講演会を実施しました。講師は、中部教育事務所主任指導主事の齋藤真先生です。

齋藤先生は、東日本大震災のおり、釜石東中学校で生徒指導主事をなさっていました。東中の生徒と隣の鶴住居小



講師の齋藤真先生

の児童、地域の人たちが高台から高台へと避難して助かったという出来事はご存知の方が多いと思われます。その避難のきっかけとなった、おばあさんからの「今まであそこの崖が崩れたことはない。ここにいたらみんな死ぬぞ。」という訴えを、当時の副校長先生に伝えた方です。副校長先生が即断して避難場所を変えたことでみんなが助かりました。このような震災直後の話から、その後の避難生活の期間中の中学生の様子、参加者の心にとどめておいてほしいことなどを、真剣に語ってくださいました。

講演の中から、いくつか印象に残った言葉を紹介します。

- 避難を終え、ふと気がつくくと町に音がなかった。
- 学校再開後の教室では、自然に「教え合い学習」が始まっていた。騒音で話がよく聞こえず、ホワイトボードの字が細く見えにくいためだった。
- 生徒たちには「できないことよりもできることを数えよう。やればできる。」と声をかけ続けた。
- 人の数だけ悲しみは横たわっている。
- 子供たちを慈しんで、語り合って、そして忘れてない。
- 細くても息の長い支援を。身近なことだから、子供とともにできることから、一つずつでも。



ご自身も時折涙で詰まりながら語ってくださいました

参加者からは、「参加して、本当に心から良かったと思います」という声が多く聞かれました。事後アンケートから、いくつか紹介します。

● 震災時あった出来事はわかりでなく、その後の生徒の様子と取り巻く家庭の状況を聞くことができ、涙を禁じ得なかった。私たちが育てなければならぬ子供たちの姿をもう一度考えることができ

た。本日はありがとうございました。

● とても素晴らしい講演でした。親だけではなく、子どもにも聞いて欲しいと思いました。これから、何ができるかを考え、家族の時間を大切にしていきたいと思えます。

● 齋藤先生の「伝えたい」気持ちがよく伝わってきて、同時に自分が体験した震災時のことと重ねて聞いていたら、自然と涙を流していました。これから、私のできることを、子供たちのために一つ一つやり遂げていきたいと思えます。本当に素晴らしい講演会でした。

おことわり

11月5日(土)に予定していた「一関地区家庭教育セミナー」は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、中止といたしました。